

淀橋市場被災産地支援研修会報告

研修日時：平成24年10月24日（水）※休市日

参加人数：37名

出 発：6時00分 淀橋市場南門

到着解散：20時10分 淀橋市場南門

取材関係者：NHKほか5社

〔1〕 福島県農業総合センター 10時20分～11時30分

世田谷市場と合同で、会議室にて福島県の検査体制等の取組みについて説明を受け、ゲルマニウム半導体検出器にて実際に放射性物質を測定している検査室の視察を行った。

【福島県説明者】

- ・「福島県の取組み」福島県農産物流通課
- ・「放射性物質検査」福島県農業総合センター分析課

1 福島県緊急時環境放射線モニタリングの取組み及び生産者による自主検査の実施と公表についての紹介

- (1) 福島県では平成23年度に100ベクレル/kgを超えた主要品目や摂取量の多い品目については、事前確認検査を導入し、出荷前に市町村ごとに検査をしている。検査方法はゲルマニウム半導体検出器にて、モニタリング検査を実施。検査結果については、専用ウェブサイト『ふくしま新発売』で公表。検査結果の検索方法は、品目から検索する方法と地図から検索する方法がある。
- (2) 県によるモニタリング検査の後、産地での自主検査（JA・出荷業者等）を行い、検査体制を強化している。米と桃について実施し、米は出荷時全袋検査、桃は出荷前に全農家で実施。50ベクレル/kgを超えたものは出荷を自粛している。検査結果は専用ウェブサイト『ふくしまの恵み安全対策協議会』で公表している。

2 放射性物質検査状況の見学

- (1) 放射線モニタリング前処理室にて、野菜、魚、米、牛乳、牛肉などの検体をマリネリ容器と呼ばれるサンプル容器に入れて準備。内容は、サンプルを水洗い後細かく刻み、専用容器に入れる。細かく刻むのは、サンプルの測定箇所により検査誤差が生じるのを防ぐためである。
また、サンプルの取り違いが無いよう何重にもチェックを行い、汚染物質が移るのを防ぐために、皿とサンプルを入れるパウチ袋は使い捨てにし、各担当者は一つの担当サンプルに専従することを徹底している。
- (2) 機器分析室には、ゲルマニウム半導体検出器が10台稼働。前処理室から運ばれた検体を順に検査。測定時間は野菜ならば10分程度。1日あたりフル稼働で200点ほど検査が出来る。

3 研修参加者からの質疑応答

- (1) ゲルマニウム半導体検出器の値段は1台いくらか。→1台(セット)約2,500万円
- (2) マリネリ容器とはどんな容器か。
→ マリネリ容器とは、ゲルマニウム半導体検出器のセンサー部分(エンドキャップ)

がすっぽり入るようなくぼみを設けた測定容器で、マリネリさんという方が開発したものである。

(3) 今、検査している検体はいつ持ち込まれたものか。

→ 今日の朝で、当日持ち込まれたものを直ぐ検査している。

毎朝検査を開始する前に必ず、標準選定値を確認し、機械に故障がないか確認してから検査を開始している。

〔2〕 全農福島 直営農産物販売所「愛情館」 12時00分～13時00分

J A郡山市の会議室にて、出荷関係者との意見交換を行い、その後、隣接している直売所の「愛情館」に行き、視察を行った。

【挨拶】（挨拶順）

- ・東京都淀橋市場長
- ・業界代表（売買参加者）
- ・ 〃 （仲卸業者）
- ・ 〃 （卸売業者）

【福島県紹介者】

- ・ J A全農福島直営農産物販売所「愛情館」店長
- ・ 出荷者代表（野菜類協議会）会長
- ・ 〃 （加工品協議会）会長

1 意見交換会（抜粋）

(1) 福島県 出荷者代表

・福島第一原発の放射能の影響により、現在ここに販売している品物は品種ごと、畑ごとに検査している体制であるが、直売所に買いに来るお客さんは激減してしまった。震災以前は子供連れのお客がたくさんいたが、みんな来なくなってしまった。検査して安全な品物を販売しているが、大変悲しい。検査して安全なものしか販売していないのに、なかなか消費者には分かってもらえない。

・加工品の材料ではきのこ類が検査に引っかかって使用できないものが多い。検査を通して安全な品物しか加工品に使用しない。米は全袋検査しないと出荷できないこととなっている。検査の順番待ちに時間がかかり、なかなか検査が回ってこなくて苦労している。

(2) 東京都淀橋市場 売買参加者

・ここに来る前に福島県の検査体制を見てきた。私は6月にも別の福島県の産地で検査をしているところを間近に見てきた。非常に高価な検査機器で何重にも検査しているのに、消費者が分かってくれていないのは残念である。消費者に積極的に伝えることが大事だと思う。東京においても学校給食などでは福島を避けている状況だ。あれだけ検査をしているのに、伝わっていない。販売側から見ると、時間がたって少しずつ売れ出して回復してきている矢先に、福島原発の報道があると、消費者は再燃してまた福島産品が避けられて売れなくなってしまう。安全であるという伝え方を報道も含めて考えていかねばならないと思う。福島の方々の努力には頭が下がる思いだ。

(3) J A全農福島 直売所店長

ア（風評被害について）

・郡山市やその周辺の野菜、果物を必ず検査して出荷できるものだけを販売している。昨年原発事故以降、新種が出ると大丈夫かとの問い合わせが続いている。時間

がたって落ち着いても報道で元通りになってしまう。検体20体ほど抜き打ち検査をし、検査結果は公表しているが気にしている人は少ない感じである。震災以前より子供連れの客足が遠のいているのは変わらない。

イ（産地からの要望）

・試食をして販売してほしい。消費者に試食をさせてほしい。品質の良さ、味の良さということ、是非アピールしてほしい。

（4）東京都淀橋市場 仲卸業者

・福島県の産地の皆さんの努力は涙が出るほど感じている。流通側から言わせてもらうと学校給食に対し全体のPRが不足している。被災産地の原材料について、その中でも福島県産は歓迎されない。ある県からは商品を納めるときに断られた。都、県、自治体に安全である、安心であるということ、PRしてほしい。教育サイドから積極的にPRしてほしい。安全であるという教育も必要だ。産地から一般へのPRは努力していると思うが、PRは年間を通してやってほしい。淀橋市場では市場の活性化のために、のぼりやワッペンを作成し、毎月18日を『淀橋市場の日』としてキャンペーンを実施している。このような取り組みをして『ふくしまの日』などを設けて、のぼりやワッペンを作り安全・安心のPRのためのキャンペーンを行ってみたいのではないかと。

（5）東京都淀橋市場 卸売業者

・（このような風評被害は）大変難しい問題。消費者は頭では分かっているけど、行動は一步引いてしまう。生産者から検査結果をもらって安全である商品として、いちばの日などに販売促進していきたい。

（6）JA全農福島 直売所店長

（皆さんの意見を聞いて）

・みなさんからの貴重な意見を聞いて、これからも安全安心の体制をきちんと構築していきたい。そして、消費者の声を聞いてそれを生かしていきたい。

※【直営農産物直売所（愛情館）視察】

平成13年6月に開店 生産者 約800人 営業時間 9:00～18:00

【3】 JA全農福島 農業技術センター 13時45分～14時45分

農業技術センターの会議室にて自主検査の検査体制と機器の説明を受ける。

【挨拶】

・JA全農福島 営農企画部長

【農業技術センター説明者】

・農業技術センター所長

1 農業技術センターについて

JAグループ福島（JA福島中央会、JA全農福島）を通じて販売される福島県産の農畜産物について、平成15年から土壌、堆肥、残留農薬等を検査するため、産地自ら自主分析できる体制を整える。放射性物質については、平成23年5月から自主検査を開始し、米の全袋検査・肉牛の全頭検査のほか、JAで取扱う販売用園芸品目（共販品等）について全品目、全戸（農家）を対象として検査を実施している。

2 自主検査実施について：農業技術センター所長説明

自主検査については、自主分析をしているというのかえって信用がなくなるため、公にはしていなかった。放射線測定検査は土壌分析からスタートした。土壌からセシウムを吸い上げることはない。スクリーニング法対応の検査で、米は全袋検査をしている。野菜や果物、家畜・園芸などの検査は、野菜の検査を開始した頃の春先はすべて出荷停止であった。トマト・きゅうり・ブロッコリーなどの価格が前年比74%で、損害賠償は28億円にものぼり、東電に請求する。

具体的な検査体制は、県の指導の下、全品目、全項目調査を行っていて、県の定める基準を超過した場合は、県にモニタリング検査の実施を要請している。

今測定しているサンプルは愛情館から運ばれた農産物で、今日水曜日の検査対象商品は、土曜日の販売のサンプルで、①農家提供のもの②抜き打ち検査のものと二重のチェック体制で実施している。

同一機種で、同レベルの検査体制で、安全を担保してから出荷している。

測定器は、24時間稼働し日に50～60品を測定可能のものもあり、検査体制が充実してきた。

“安全なものなのか、リスクがあるものなのか、確認することが重要“だと思っている。

少しずつ安定し、売上げも上昇してきたが、震災前に比べるとまだまだ回復とは言えない。JAや県が安全を証明しないと売れない。風評でなく、品物にあった値段で取引できることを願っている。

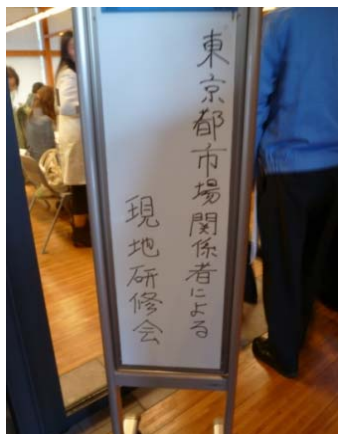
福島県農業総合センター



福島県農業総合センター 外観



福島県の取組みの説明風景



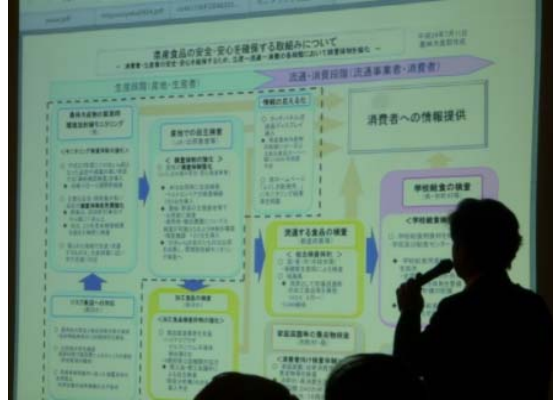
大会議室にて（世田谷市場と合同）



検査体制の取組みを説明する農業総合センター
農産物流通課長



WEBサイト『ふくしま新発売』の説明



WEBサイト『ふくしまの恵み安全対策協議会』の説明

放射性物質検査状況の見学



モニタリング前処理室入口



前処理室入口より ガラス越しに処理状況を望む



モニタリング前処理前の検体

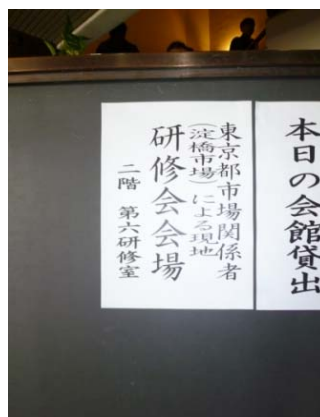


前処理後の検体を ゲルマニウム半導体検出器のサンプル容器に入れているところ

JA全農福島 直営農産物販売所
『愛情館』



愛情館に隣接しているJA郡山市



JA郡山市の会議室にて意見交換会を行なう

生産者との意見交換会



会議室にて



生産者代表の方々



東京都代表挨拶



淀橋市場業界代表挨拶



生産者代表(野菜類協議会会長)



淀橋市場売買参加者代表

農産物直売所(愛情館)視察



農産物販売所 愛情館



農産物販売所 愛情館入口



愛情館 店舗内



愛情館 店舗内



愛情館 店舗内



愛情館 店舗内

JA全農福島 農業技術センター



農業技術センター 外観



農業技術センター会議室にて



全農福島側挨拶(営農企画部長)



自主検査について説明をする
農業技術センター所長

自主検査の検査測定機器類

